



義太夫協会会報
第72号

平成13年1月1日
社団法人 義太夫協会発行
〒104-0061 東京都中央区銀座
4-13-11 文明堂3F
TEL (3541) 5471
FAX

祝 三十周年感謝のつどい

九月二十日(水)六時半より、東銀座のホテルアルシオン、ブロッサムホールにて、「義太夫協会法人化30周年感謝のつどい」が開催されました。

まず、竹本弥乃太夫常務理事の開会の辞に続いて、景山正隆会長の挨拶があり、協会法人化に尽力された吉川英史初代会長(現最高顧問)、その後を引き継いで協会の発展に尽くされた田邊秀雄二代目会長(現名誉会長)に感謝状が贈呈されました。

そして館野善二相談役の発声で乾杯の後、来賓挨拶として、元国立能楽堂主幹の秋元実氏、NHK音楽番組部長で「芸能花舞台」担当の古谷邦雄氏、芸団協の松本伸二氏、NHK厚生文化事業団常務理事の有馬大造氏より、それぞれ祝辞を頂戴致しました。

その後歓談の合間には、義太夫「長生殿」

のテープが流され、各方面より寄せられた祝電の披露も行われました。

今後の演奏会の予定や間近に迫った祖先祭のPRの後、竹本朝重副会長によって中メとなり、参会者には記念品として、協会編による「義太夫協会30年史」が配られました。

会場には、本牧亭時代からのお客様や義太夫教室OBの方々のお顔も見られ、協会幹部や中堅・若手の正会員たちと和やかに歓談する姿が見受けられました。

二日後の二十二日には、国立演芸場にて記念演奏会が行われ、駒之助以下中堅若手総出演の「寿式三番叟」、越道・源平の「紙治内」、朝重・友路の「帯屋」が上演されました。



○ 当日ご出席頂いた方々にご感想を伺いました。その一部をご披露いたします。

(敬称略・五十音順)

○ 私の義太夫人生も細々ながら足掛け五十年となり、意義のある年です。

出月清人

○ 大変心暖かな和やかな一夕でした。本牧亭で女義が始まった頃は観客も年輩者が多く、若い人は余り見かけませんでした。が、このところ若手の方々の活躍も目立ってきて、お客様も若い方が多く、熱心に聴いていただけるので、伝統芸能がなくなりませんと思います。

舞踊芸術 井上道代

○ 同じ演目でも演者によって趣や味わいが違っている、そんな義太夫をたっぷり楽しんで聞ける機会をふやして下さい。

菊池 明

○ この度、私は感謝状まで頂きましたが、泉下の仙廣さん、土佐廣さんのご功績は私の数倍であります。そのあと上部の方々のおかげで「義太夫教室」や「教師の為の講習会」など次々と趣向を加えられ、今のような発展が実現しました。私よりもみんなに感謝状を上げて頂きたいと思っております。

吉川英史

○ 父河野国声が生存中から、国立劇場に収納庫を作るとか、パソコンを導入するとか、仙廣賞を出すとか、等々の事で協会と関わってきました。お陰様で私の世界もジャズから義太夫まで広がった様になります。又、三十年史を頂いて父と協会の関わりを初めて知る事が出来ました。

河野哲丸

○ こうしたパーティーは私の時代にも一度やりたかったのですが、協会は世代の変わり目で古い方は亡くなり、何とか会の存続に力を入れねばならず、出来なかったのです。ともかく盛会おめでとう。

田邊秀雄

○ 家族的な和やかな会でした。長老から若手まで固い結束の然らしむるところとお見受けしました。親に反対されていた娘がよく伴侶を得て心置きなく稽古が出来ること聞かされたのも嬉しいニュースでした。

鳥越文蔵

○ 出席者の皆様が義太夫協会に情熱を燃やしていることに喜び、益々の発展をお祈り致します。

永合浩司

○ 後継者の養成に力を入れてこられた貴協会に深く敬意を表します。新聞記者時代、義太夫教室などを取材させていただいた

事を昨日のように思い出しました。

羽鳥昇平

○ 演芸場などで余りお見掛けしない、各方面の多くの方々が後援者として顔を見せておられるのに驚くとともに嬉しく思いました。

藤尾真一

○ 私共ひとみ座乙女文楽は、貴協会のお陰で公演をさせて頂いております。先日アメリカ公演の成功も、偏に師匠方のお陰と思っております。

現代人形劇センター 松澤文子

○ 職業人団体と研究団体、この二つの重要な役割を見事に両立され、今日をお迎えになられたことに、そしてさらに義太夫の普及、発展にご尽力されていることに敬意を表し、これからの益々のご隆盛を祈念いたします。

松本伸二

○ かつて女義のファンだった応援団が健在である様子は実に心強いもの。「継続は力なり」が演者だけの問題ではなく、後援する側の問題でもあることがよくわかった。今後は若いスターの台頭を願うだけではなく、若い勝手連の育成にも協力して行きたい。

邦楽の友社社長 守谷幸則

戦後の協会周辺

竹本弥乃太夫



協会30年史については、協会のあゆみに詳細が記述されているので、それ以前に触れてみたい。敗戦で廃墟と化した東京、その傷痕は痛ましかった。復興の兆しが見え始めた昭和22年頃、素人義太夫の会がいち早く看板を上げた。ピラにつられ聴衆の一人になって坂本さん(後の湊太夫師)と知り合い、義太夫教室からプロとして今の、義太夫の道を進むことになった。女義太夫の会は相前後して、東京亭(浅草の神谷バーの横の路地)で復活の看板が、表の電車通りに置かれた。清一さんや重之助さんの名が出ていた。その頃に至っても歌舞伎座の大屋根は崩れたまま、瓦礫

となって放り出されていた。そんなとき、義太夫教室が第一期を開講した。昭和23年6月である。当時、文楽では組合と因会が対立し、素義界(素人義太夫)も各派に分かれ、民衆に人気を呼んだ女義はその影さえ没しかけていた。義太夫界は閑古鳥が鳴いていた。こんなことでは大変だ、古典芸術義太夫を維持保存することは義太夫を愛するものの責任である、と、湊太夫師が提唱者となり、プロもアマも総括して「義太夫協会」を昭和24年11月、両国の邦楽道場にて設立の発会式を挙げた。そして昭和25年3月、協会第一回公演を浅草スミダ劇場にて、出演者は素玄合同70名、内容は三宅周太郎氏の講演、文楽の鶴澤綱造師の特別出演により、妹背の山、阿古屋、博多小女郎、弥陀本願三信記、等9演目で華々しく幕を上げた。また同年、従来太夫三弦の団体として長い歴史がある東京の因会も、名称「日本義太夫協会」として委員制により発足、委員長(男子)豊澤猿蔵(女子)竹本素女両氏が努めたが、しかしその後、ややこしく仕様がな、と言うことで、これらの協会を統合して、さらに新しく「義太夫因協会」を発足させ、素義の方たちを賛助会員として、会長を豊澤松太郎、副会長を竹本綾之助、理事長を豊竹湊太夫各師がそれぞれの任に当たった。因協会が義太夫協会となり、社団法人になったのは既にご承知の通りであります。



豊澤住造師(大阪) 文化庁長官表彰

昭和十九年に豊澤小住に師事し、豊澤住造と改名。多数の門人の指導に力を尽しており、演奏実績、養成努力に対して長官から表彰されました。



12年度 文化庁長官

二十一世紀初頭の新年を迎えて

社団法人義太夫協会会長

景山正隆

新年おめでとうございます。

いよいよ二十一世紀を迎えました。二十世紀最後の年に社団法人三十周年という大きな節目を迎えたわが義太夫協会も、清新な気分です。新しい時代に即応し、さらなる発展を期したいものです。

新世紀を迎えたのを機会に、過去百年ごとの節目の頃の義太夫関連の歴史的動向を振り返ってみることにしたいと思います。まず二十世紀初頭前後では、明治三十一年(一八九八)の二世豊澤団平の他界、明治三十六年(一九〇三)に二世竹本越路太夫が摂津大掾を受領したことなどが特筆されます。遡って十九世紀初頭前後では、寛政十一年(一七九九)に道頓堀若太夫芝居で「絵本太功記」が初演され、十九世紀初頭の享和元年(一八〇一)に、松好齋半兵衛著「戯場楽屋図会」正編上下二冊(人形浄瑠璃の舞台・図譜)が刊行されており、人形操りや義太夫節の様式の完成を遂げた時期であることを如実に物語っています。またこの頃に、淡路出身の初代植村文楽軒が大坂に出て、高津橋南詰に後の文楽座の母胎ともいへべき浄瑠璃の稽古所を開いていることも見逃せません。さらにその百年前は、「外題年鑑(宝暦版)」によりすると、十八世紀初頭の元禄十四年(一七〇一)に竹本義太夫が筑後

掾を受領したことになっています。しかし、

『鶯籠籠中記』元禄十一年九月二十九日の記事に尾州公の別邸で終日饗宴が催されたことが記され、記事中に「有操蟬丸 竹本筑後」(近松門左衛門作「蟬丸」が竹本筑後掾らによって上演された)とあることにより、現在は筑後掾受領の時期は元禄十一年以前のものと訂正されています。何れにしても、元禄十六年(一七〇三年)に「曾根崎心中」が初演されていることなど思い合わせると、十八世紀初頭は、竹本義太夫の技芸が円熟していた時期に当たることはいまでもありません。このように見えますと義太夫節三百余年の歴史と伝統の重みが改めてひしひしと感じられます。義太夫節の歴史といえ、宝暦元年(一七五二)に並木宗輔が五十七歳で他界しています。それから、宗輔の絶筆となった「一谷嫩軍記」豊竹座初演(宝暦元年十二月)から本年は丁度二百五十年になります。並木宗輔は、元来豊竹座の座付作者でしたが、延享二年(一七四五)に竹本座に移り並木千柳と改名して合作陣の主軸となり「夏祭浪花鑑」を始めいくつもの名作を手懸けていますが、何ととっても特筆されるのは、人形浄瑠璃・歌舞伎を通じて三大名作といわれる「菅原伝授手習鑑」「義経千本桜」「仮名手本忠臣蔵」を世に残したことでしょう。ともあれ、本年が宗輔の二百五十年忌に当たり、絶筆「一谷嫩軍記」初演二百五十年の年であることは銘記しておきたいと思えます。

加賀春
なごち年賀状

いよいよ、二十一世紀に突入しました。気持ちも新たに、今世紀初の「年賀状」をお届けします。



○新しい年も健康と相談しながら、ぼつぼつ歩みつづけたいものと願って居ります。

竹本朝重

○二十一世紀の幕開き、おめでとう！

竹本綾一

○今年こそ稽古場にFAXを導入するか、全員にメールアドレスが普及するのを待つか：それが問題だ。

竹本越京

○年々涙もろく、又怒りっぽくなって困ります。少なくとも人を怒らすような芸人にはなりたくありませんよね。二十一世紀もよろしくお願い致します。

竹本越孝

○四月に九十才の会を致します。元気で頑張ります。本年もよろしくお願い致します。

竹本越道

○今年こそ、三キロやせたい!

竹本越若

○本年も、よろしくご指導をお願いします。

竹本駒紀

○二十世紀よ さようなら

新しく心も軽く行きましょう 竹本駒輝

○新しい世紀を迎え、初心忘るべからずの気持ち

持ちを大切に、舞台を勤めたいと存じます。

本年もよろしくお願い申し上げます。

竹本駒之助

○新年おめでとう御座居ます。二十一世紀に

義太夫は何をすることが出来るの?義太夫に

二十一世紀は何をすることが出来るの?

友よ、答えは「風」の中なあってね。

竹本谷太夫

○自分を支えてくれる人々に感謝をしつつ歩

んでゆきたい。

竹本土佐恵

○新年おめでとうございます。二十一世紀の

訪れとなり、心新たに前進していきたいと思

って居ります。本年もどうぞよろしくお願い

申しあげます。

○春の来ない冬はない! とにかく一步、一

歩、歩み続けますので、どうぞ本年もよろし

くお願い申し上げます。

○一日一日生かしていただいている事に感謝

しています。

○目標達成!去年より2キロ、強い女になり

ました。(七〇号参照) 竹本素丸

○ワクワク、ドキドキしながら新世紀を迎え

たいと思います。宇宙から地球を眺めてみた

い!本年も頑張りますので、よろしくお願い

します。

竹本佳之助

○今年はいくら当たります。

鶴澤賀寿

○明けまして、おめでとうございます。

今年も又、基本をしっかりとる事を心がけた

いと思ひます。

○二十一世紀の勢いに乗って、飛躍の年にし

たいです!

鶴澤駒治

○昨年引越しました。引越しはもうこりこり

なので、誰かお嫁に来て下さい。

鶴澤三寿々

○明けましておめでとうございます。皆様の

鶴澤津賀榮

ご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

○今年は何んな事が起きるか楽しみです。

○あけましておめでとうございます。

二十一世紀を迎え、若者達が大きい浄曲会に

躍進することを期待いたしております。

鶴澤友路

○謹賀新年

○「ヘビの夢を見たら3日内緒にしましょう

金運を招くと言われています。」今年も素晴らしい

1年になります様に!

○元気になり、少しづつでも進んでゆけたら

と思っております。

○あけましておめでとうございます。

今年も根性でがんばります。

○明けましておめでとうございます。

私も本年で満九十二才を迎えました。まだまだ勉強して、

斯道の発展の為努力して行く度く存じます。

今年もよろしくお願ひ申し上げます。

豊澤源平

○二十世紀失ってしまった深い愛と日本語の

美しさを、義太夫節によって、人々の心にと

りもどす事が出来る二十一世紀であります様

心からお祈り致します。

豊澤幸治

○中国で京劇の観光劇場に行き、伝統芸能の

普及について考えました。私は少しづつ前進

します。

野澤喜恵博

○輝かしい新年のご発展を心よりお祈り申し

上げます。今年はいち線片手に小学校を廻っ

てみたい。

野澤松也

○早いもので協会で働き始めて二度目のお正

月を迎えます。今年もよろしくお願ひ致しま

す。

事務局 柴田良子

文化財保護法五十年記念

文化財保護功労者表彰

10月30日国立劇場で天皇后両陛下
ご臨席のもとに開かれた文化財保護法
五十年記念式典において、義太夫節保
存会は、多年にわたり義太夫節の保存
伝承に努め、文化財の保護に貢献して
いるとして、表彰されました。



二〇〇〇年九月、ニューヨークで「ヘンソン国際人形劇フェスティバル(*)」が開かれ、今回日本から、現代人形劇センタリーの乙女文楽ひとみ座が招かれました。義太夫協会から竹本綾一・豊澤幸治・竹本駒輝・鶴澤津賀栄が同行しました。

*ジム・ヘンソン(セサミストリートの人形作家)亡き後創設されたヘンソン財団の主催により、一九九二年に初めて開催された。十四ヶ国、二十六団体、百四十六人のアーティスト、二百十六演目、六百三十八体の人形を集め、三週間に渡ってニューヨークの十二の劇場で行われた。

九月十一日

ひとみ座より一日遅れて成田を出発。空港は大変な混雑。搭乗手続きの間、打ちつける雨が窓の外を滝のように流れていた。出発が遅れるのではないかと心配したが、定刻通り十一時、全日空010便で発つ。これから十二時間半の空の旅。

ニューヨーク十一日

十時半、J・F・ケネディ空港に無事到着。迎えの車に乗りロジャースミスホテルに向かう。ロビーで、ひとみ座の松澤文子氏と会う。

荷物を置いてすぐに劇場へ。劇場(ジャパソサエティ)はホテルから歩いて一〇分とかならない所にある。舞台を下見。客席に張り出す形で舞台外に作られた床は、幅・奥行きともに狭い。午後は、取材があり、写真撮影の為の部分演奏。その後通し稽古。全員疲労を実感する。

ニューヨークの街の印象

東京に似ているようで、違う。ビルは古いものと新しいものが混在して、それぞれ個性的な顔がある。街全体におおらかな感じが漂う。

十二日オフ

午後、五番街からセントラルパークを四人で散策。セントラルパーク近くの交差点で、綾一さんは少し年輩のご婦人から、地下鉄までの道を尋ねられる。「なんで私に聞くの?」夜、先輩方の薦めもあり、若手2人はプロードウェイを観劇。「フォシー」を見る。途中で寝てしまったが、生のジャズバンドが入る。二部の後半はすごく盛り上がった。明日は、イヤホンガイドを耳にしたアメリカのお客さんの前で、どのように演奏すればいいのだろうか……。

十三日初日

撮影の為部分演奏とゲネプロ。八時開演。

おさと 村上 良子 浄瑠璃 竹本 綾一
沢市 伴 通子 三味線 豊澤 幸治
観音 吉澤亜由美 鶴澤津賀栄

(観音) 竹本 駒輝

義経千本桜・道行初音

静 吉沢亜由美 浄瑠璃 竹本 綾一
忠信 関島 路乃 竹本 駒輝
きつね 村上 良子 三味線 豊澤 幸治

アメリカ人は冷房に強い!昨日の劇場もそうだったが、客席も楽屋も全館冷房で冷えきっている。それでも女性がノースリーブで観劇している。体感温度が違うのだろうか。ゲネプロから開演までの間に、心底冷えきってしまった。

床!演奏する上で、床は大切だが、なかなか思うようにいかない。持って来たのは簡易見台だが、正式の見台ならば狭くて載せる事はできなかっただろう。座ろうとすると見台が左右に傾き、なんとなく演奏中もじっとしてくれない。いろいろ工夫してもらったが、床と舞台の間に三角の溝ができ、幸治さんも綾一さんも一度ならず足をとられた。また千本の後カーテンコールの為にすぐ舞台にのらなければならぬが、三味線さんが三味線を持っただまま立ち上がるのは大変だった。

ジャパソサエティ(*)という名前から日本人のお客さんも多いのかと思っていたらそうではなかった。三百近い客席は満員だった。*一九〇七年創立。当初は、日本の文化と美術を米国に伝える役割を果たす。第二次大戦中は一旦閉鎖。劇場のある本部ビルは、故ロックフェラー三世元会長から寄贈された敷地に一九七一年に完成。一九九七年迄に増改築がなされ、日本庭園もあるきれいな建物。

十時終演後、ジャパソサエティ主催のレセプションに参加。

十四日(夜公演のみ)

幸治さんの部屋で、明日のレクチャーの打ち合わせと、その稽古。

入りまで間があり、4人でグラッドセントラル・ステーションとキング・コングで有名なエンパイア・ステートビルへ。

日が沈むのが遅いせいいか、時差ボケも手伝ってか八時開演といってもそれほど遅く感じられない。終演後、このフェスティバルの主催者であるシェリル・ヘンソン氏宅のパーティに出席。十二時には、ブロードウェイのお宅を一座全員失礼したが、夜の街でタクシイが拾えず、地下鉄を利用することになる。これも以前では、考えられないことだが、四、五年前今のジュリアーニ市長に代わってから、格段に治安がよくなったそうだ。

十五日

コロンビア大学近くのバーナード・カレッジで学生さんにレクチャー。タクシイで一時間程。運転が荒いのと、道が悪いので気分が悪くなった人数。演劇関係の大学で、小さな劇場がありそこで義太夫の実演とおはなし・人形の説明と体験講座をおこなった。学生は二、三十人。そのうち五、六人は今回の公演を見るにあたり、三週間文楽を勉強したそうだ。浄瑠璃の稽古もしているというので、ローマ字の床本をみせてもらおうと、教材になったのは、妹背山婦女庭訓から「山の段」。松澤文字子氏から、乙女文楽についての説明

がある。(通訳は公演のイヤホンガイドも務めるレオン・インガルスラッド氏)

実演は千本の道行からおもに戦いの場面。つづいて幸治先生が義太夫の成立について話される。

実際に語りを稽古したいと言ったことなので、綾一さんが「山の段」ではなく「壺坂」からおさとのさわりを指導した。前日のうちに綾一さんがさわりの部分をローマ字に直し、それを見ながら、皆で「三つ違いの兄さんと」。なかなか声がでないので、教授から「もっと音階に注意して声を出すように。」と言われていた。河向さんによる鳴り物の実演。

そして村上良子さんによる人形の体験教室。千本の静と忠信を、吉澤さん(静)と関島さん(忠信)の指導のもと、実際に遣ってみようというもの。学生たちは大喜びだった。

二時間を越す、レクチャーを終え一路劇場に戻る。

終演後は近くの日本食レストランで軽い食事をして戻る。

十六日(いよいよ千秋楽を迎えた)

昼公演ということで子供も来ていた。一番前の席であきずに見ている子もいた。

入れ替え時間に、ニューヨーク・タイムズの取材があり、女性記者と人形作家(こちらにも女性)のインタビューを受けた。若手の人形遣いさんということ、床の若手も同席する事に。

初日と今日の昼公演を観劇したが、「初日もすばらしかったが、今日の方がよりこなれ

れていて良かった」そうだ。人形作家によると、壺坂と千本では遣い手と人形の距離が違うように感じられるという。壺坂では「母親が赤ん坊を抱くように、人形を遣っている。遣う上で何か母性のようなものは関係あるのか」という質問だった。世話物と時代物という違いはあるが、それ以上に強くアピールする物があったようだ。関島さんから「桐竹智恵子師匠に、人形が動くようにしているように人形を遣えと教えられた」という答えがあった。

また記者からは、「文楽という男性のみによる伝統的な人形浄瑠璃があるが、女流は女流で違うやり方なのか、それともやり方は同じで、あなたがたまたま女だったという感じか」と聞かれた。

その他にも「あなた方の師匠は、男性にも教えるのか」「人形がひとりで感情をもっていると感じた事があるか」という質問をうけた。そして最後の公演。

無事に楽を勤められほっとする。

十七日

ひとみ座の皆さんに見送られて、ホテルをあとにする。ようやく小銭の出し方にもなれたと思ったら、もうさよならなのだ。また来ることがあるだろうか。

これから帰りは十三時間の空の旅。往きの飛行機で綾一さんはすばらしい満月を見たそうである。飛行機の外はいつでも昼だと思っていた。帰りは夜空を見ようと思っていたが、ずっと昼間だった。(駒輝)

平成十二年度

「一日体験教室」より

本年度も二度、東銀座のスペースアルファを会場に開かれました。七月三十日の参加者の感想から一部をご紹介します。

【語りの部】

講師 竹本土佐子

- 節回しや息継ぎが難しいです。間の取り方も。奥の深いものだと思います。
- すごく難しかった。聴いている方がいい。シンコペーションを多用しているし、楽譜があればもっと楽なのに。
- 田島町でも義太夫をやっていますが、やってみたら、結構難しいものでした。これを機に田島で頑張ろうと思います。(小6)
- 子供が文楽好きで申し込みました。とても楽しそうに声を出していましたが、台詞がわからず、皆さんの声より半歩ずれていました。また、参加したいと思います。
- 聞いているのと、実際に語るということのギャップに驚きました。思っていたより音のズレ(関西弁?のせいか)があり、関東に住む私にはとても難しいと感じました。
- とても面白かった。聴いていてとても楽しかったけれど自分が声を出すのも楽しかった。メロディを歌う部分と語る部分を2つも楽しめるからかなと勝手に考えたり。またやって下さい。

【三味線の部】

講師 鶴澤津賀寿

- 楽しく弾かせて頂きました。思ったよりもパワーが必要だと感じました。バチも思ったより大きく、幅もあるので慣れるのが大変でした。取っ付きにくい分野なので、この様な体験教室があると道が開きやすいと思います。
- あっという間の二時間でした。三味線は、祖母が演奏しているのを見たことがあるだけでしたので、触ってその音を直に聞くことが出来たのは、とても素敵な体験でした。
- 小指が痛くなるなんて思ってみななかった。すごい大変でした。でも音が出ると楽しいですね。また機会があれば来たいです。
- 聞くばかりで実際に触ったことはなかったので心配でしたが、構え方の基本から教えて頂き、ゆっくりと楽しめました。もう少し時間があったら、西洋音階との違いを聞いてみたかったです。
- 迫力がある音が出るので驚きました。歌舞伎はよく見に行くので、今後は義太夫にも注目しながらみたいと思います。
- 最近、三味線に興味を持ち、今日とても楽しみにしておりました。指遣いがとても難しく、普段楽そう(簡単)に弾いている様に見えますが、とても大変だということがわかりました。でも、とても楽しくてますます興味が湧きました。

国立演芸場

女流義太夫演奏会

のこ案内

平成13年

1月20日	(土)
2月23日	(金)
3月22日	(木)
4月23日	(月)
5月22日	(火)
6月22日	(金)
7月18日	(水)
8月22日	(水)
9月19日	(水)
10月22日	(月)
11月22日	(木)
12月21日	(金)
1月16日	(水)
2月26日	(火)
3月26日	(火)

平成14年

開演時間は、

6時30分です。

☆奇数月一日二日は「こぎん」を飾る ☆偶数月一日二日は「さだゆ」座「上野広小路亭

協会の動き

00年6月より
00年12月まで

〔平成十二年度〕

6月23、25日 ルネッサながと浄瑠璃・三味線教室 於ルネッサながと

7月1日 「じよぎ」公演 2日間 於上野広小路亭

7月4日 車人形出演 於由木中学校

7月14日 芸術文化振興基金助成確定 会報第71号発行

7月17日 普及部会 於松竹第三会議室

7月20日 子どもと舞台芸術「へえ三味線っておもしろいんだね！」出席 於東京オペラシティタワー会議室

7月21日 女流義太夫演奏会「桂川連理柵」他 於国立劇場演芸場

7月24日 公演部会 於松竹第三会議室

7月24日 第53期義太夫教室初級開講式 於スペースアルファ

7月30日 一日義太夫体験教室 於スペースアルファ

8月1日 「ぎだゆう座」公演 2日間 於上野広小路亭

8月10、12日 ルネッサながと浄瑠璃教室 於ルネッサながと

8月16日 備品部会 於国立第二演芸研修室

8月22日 三十周年実行委員会 於松竹第三会議室

22日 女流義太夫演奏会「妹背山婦女庭

訓」他 8月23日 アメリカ公演打ち合わせ 於国立劇場演芸場

23日 東京都補助金申請書提出 於松竹第三会議室

23日 編集部会 於松竹第三会議室

9月1日 常務理事会 於松竹第三会議室

9月4日 「じよぎ」公演 2日間 於上野広小路亭

9月9日 第53期義太夫教室中級開講 於ホテルアルシオン熱海の間

9月11、18日 乙女文楽公演出演 於茅ヶ崎市民文化会館

9月14日 備品部会 於松竹第三会議室

9月20日 「義太夫協会30周年感謝のつどい」 於ホテルアルシオン

9月22日 車人形出演 於石川中学校

9月22日 女流義太夫演奏会「義太夫協会法人三十周年記念」於国立劇場演芸場

9月25日 芸術文化振興基金説明会 於駒場東京大学

9月27日 邦楽連合会 於芸団協会議室

9月28日 「女流義太夫の至芸」 於国立劇場演芸場

9月29日 第五回「長月会」於上野広小路亭

9月30日 第三回「巴の会」於厚木文化会館

10月1日 「ぎだゆう座」公演 2日間 於上野広小路亭

10月2日 車人形出演 於恩方中学校

10月3日 車人形出演 於榎原中学校

10月4日 編集部会 於松竹第三会議室

10月22日 大日本素義会 於白鳥会館

10月24日 女流義太夫演奏会「実験講座」他 於国立劇場演芸部

10月27日 公演部会 於松竹第三会議室

10月30日 文化財保護法五十年記念式典 於国立劇場大劇場

11月1日 第三十三回竹本朝重リサイクル 於銀座ガスホール

11月6日 普及部会 於上野広小路亭

11月6日 編集部会 於松竹第三会議室

11月11日 編集部会 於松竹第三会議室

11月11日 「まるごと一段」 於和音

11月15、17日 ルネッサながと浄瑠璃教室 於ルネッサながと

11月18日 車人形出演 於八王子市民会館

11月22日 分野別懇談会 於芸団協会議室

11月24日 女流義太夫演奏会「仮名手本忠臣蔵」 於国立劇場演芸場

11月30日 豊澤住造、文化庁長官表彰 於国立劇場演芸場

12月1日 「ぎだゆう座」公演 2日間 於如水会館

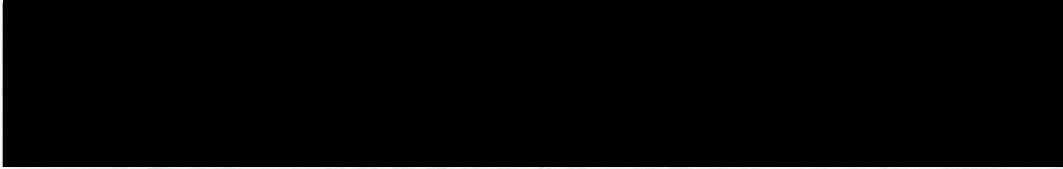
12月2日 車人形出演 於上野広小路亭

12月6日 邦楽連合会 於陵南中学校

12月15日 芸術文化振興基金申請書提出 於サロンドサンク

12月22日 女流義太夫演奏会障害者のための特別公演「仮名手本忠臣蔵」 於国立劇場演芸場

新 入 会 員 御 紹 介



(入会順・敬称略)

住 所 (住 居 表 示) 変 更 等



〔訃報〕

豊竹呂大夫様 平成12年9月9日
義太夫協会の若手研修で大変お世話になりました。ご冥福をお祈り致します。

西川柳峰様

平成12年11月1日



八王子市の伝統芸能で、東京都無形文化財「八王子車人形」宗家。享年七十八。子供のころから車人形の修行を始め、昭和十四年(一九三九)西川柳玉を名乗る。昭和四十五年(一九七〇)家元・四代目西川古柳を襲名。平成元年(一九八九)文部大臣地域文化功労賞、平成六年(一九九四)芸術祭賞を受賞、今年九月には国際人形劇連盟名誉会員となる。伝統的な車人形の技法に文楽の技法を取り入れ、アメリカ、中南米、韓国など世界各国でも公演し、車人形の発展に尽くされました。近年は長男に家元を譲り、後進の指導に当たっておられました。

〔寄付〕

大日本素義会様

三万円

〔寄贈〕

田邊秀雄様

平成元年本牧亭お別れ公演

鶴澤慎治様

「忠臣蔵」ビデオ

アガリ糸多数

藤田春恵様

見台用房

〔事務局から〕

義太夫協会ホームページを立ち上げてからはや一年が過ぎました。11月11日現在で4212人の方にご覧頂きました。これからもどうぞアクセスしてください。

http://www.ne.jp/asahi/gidayu/jyouru-ri/index.htm

【編集後記】

- 肩の荷を降ろせる日を指折り数えています。(T)
- 字数を考えず適当に入力した原稿がびったり一頁分。私ってやっぱり天才！(K2)
- ミレニウム、ミレニウムと唱えているうちに過ぎた一年でした。今年はカゼをこじらせない様、頑張ります。(Y)
- 右に同じ。(新K&S)
- 強力な助っ人とおだてられて入りました。(Ki)